



あらためて考えたい 辺野古基地問題

辺野古基地問題とは

1995年の米兵による凶悪事件をきっかけに、県民の反基地・反米感情が高まったことから、普天間基地を返還する動きになりました。そのため普天間基地が担ってきた機能を辺野古へ移すという計画が持ち上がったのが辺野古基地問題の始まりです。

辺野古基地建設の問題点はサンゴやジュゴンなどの生態系へのダメージ、基地から出される排水や廃油による環境、漁業への影響、そして沖縄に新たな基地が出来るという沖縄県民からの反対意見が挙げられます。

辺野古基地建設までの流れ

1996年4月、日本政府は普天間基地の返還を、沖縄県内移設を条件にアメリカと合意。12月の最終報告で名護市の東海岸沖へ代替基地移設が明記されました。1997年に移設予定先である名護市の市民投票で、基地建設に反対していることが明らかとなりましたが、1999年に普天間基地移設の閣議決定がなされ、2004年から辺野古へボーリング調査(海底を掘削する調査)を開始。これに対し反対派から阻止行動がはじまりました。

2019年2月の県民投票で、投票総数の71%が辺野古移設に反対との結果になりましたが、政

府は2018年12月から土砂投入・埋め立てを知事が許可しない中で強行している現状となっております。



なぜ普天間に基地があるのか

普天間に基地が建設されたのは沖縄戦のあった1945年。上陸した米軍が土地を占領し、日本本土への出撃拠点として必要な施設を作りました。終戦後、疎開先や収容所から戻った住民らは、自宅のあった土地に基地ができていたために、その周辺で暮らすことを余儀なくされました。

1952年のサンフランシスコ講和条約発効後、米政府は住民と土地の強制的な使用について新たに手続きを取る必要がありました。しかし、多くの住民が反対する中、米政府は一方的に法令を公布し使用権限を得ました。その後も新たな土地接収を進め、1996年には住民が拒否しても首相の権限で使用できるように駐留軍用地特措法を改定。永久に土地を借りることが出来る仕組みができあがりまし

県内の米軍専用施設面積は現在でも約1万8500ヘクタール(沖縄県民の9割が居住する本島の約15%)。全国の7割が沖縄に集中しています。



辺野古が選ばれた理由

移設の候補地には、「住民の安全確保や騒音の軽減」、「県民の財産になるもの」など4項目を基本方針に選ばれました。1999年、県は名護市辺野古を選定。理由としては「騒音を軽減できる」ことや「軍共用空港により、地域経済発展の拠点や、空港を中心とした交通ネットワークが形成されること」と説明しています。

私たちにできること

普天間基地のある宜野湾市で提起されている騒音問題や墜落事故の危険性は、名護市でのオスプレイの墜落事故や東村高江のヘリ不時着などが起きており、県全体の問題といえます。辺野古へ基地を移設してもこれらの問題は解決しないとされます。また辺野古には沖縄でも規模の大きい良好な藻場があり、絶滅危惧種のおキナワ

ハマなど多くの種類のサンゴが生息しています。砂地はジュゴンの好物ウミヒルモなどサンゴ礁生物のオアシスとなっています。辺野古の海は、サンゴ類及びサンゴ礁生態系を構成する生物に多様性が高く、自然保護上きわめて重要なのです。

このような自然破壊をもたらす移設計画は、住民の生命と生活を守るためにも撤回を求めます。そのために私たちができることは、現地での工事阻止する行動として座り込みや辺野古新基地工事中止を求める署名活動に参加すること、沖縄の現状を周りの人たちと共有し、一緒に活動をしていくことです。

今回の記事を読んで沖縄の基地問題に興味を持っていただけましたか? 8月は太平洋戦争終結の月です。皆であらためて平和について考えてみましょう。(岡本)



参考: 民医連HP
沖縄タイムズプラス「そもそも辺野古」

夏風邪と夏バテ

風邪の80〜90%はウイルスの感染が原因で起こります。多くのウイルスは寒くて乾燥した環境を好むため、冬に風邪が流行りますが、暑くて湿度が高い夏の環境を好むウイルスもいます。代表的なウイルスとしてはエンテロウイルスやアデノウイルスです。

主な症状としては下痢、腹痛などの胃腸障害です。



夏風邪と夏バテの関係

風邪は健康な人でもかかりますが、特に体の免疫力が低下しているときに感染しやすいです。暑さやクーラーのかけ過ぎによって疲労や食欲不振、寝不足の状態になると免疫力も低下し、夏バテ症状を起こします。エンテロウイルスは喉だけでなく、腸でも繁殖するため、発熱や喉の痛みに加え、下痢や腹痛など腸の症状があらわれます。

夏風邪はお腹にくるといわれるのは、このウイルスに感染したケースです。アデノウイルスも呼吸器と腸で繁殖しますが、発熱と喉の痛み、激しい咳が出るのが特徴です。咽頭結膜炎や咽頭炎を起こすケースもあります。

下痢止めを飲んでいい？



夏風邪による下痢は、腸内のウイルスを便と一緒に体外に排泄しようとして起こる症状です。下痢止めを飲むことでウイルスが排泄されず、夏かぜの回復が遅れることもあります。下痢が何日も続いたり、体力の消耗が著しい重度の下痢の場合など、下痢止めを使用した方がいいケースもあるので、まずは病院にかかり、きちんと医師から処方してもらいましょう。自己判断は回復を遅らせることも多いです。

夏バテ防止で免疫力を高めよう



夏バテの原因は、主にビタミンやミネラル・たんぱく質などの不足と、冷房による自律神経の乱れによって起こります。今回は、夏バテ防止のための生活習慣のポイントを7個にまとめました。

ポイント

① 火を使った料理を食べる

夏は冷房で思った以上からだが冷えています。煮物、味噌汁などの火をじっくり通した温かい料理も食べるようにしましょう。



② 食事の品数を増やす

夏は食欲が低下し、麺類など簡単に済ませがちになります。野菜をしっかりとって、栄養のバランスの良い食事をしましょう。



③ 冷たい飲み物に注意

夏は冷たい飲み物が美味しくなります。ビールを飲むために水分を我慢する人がいますが、アルコールは利尿作用があつて、水分補給にはなりません。また、冷たいものは、胃腸の働きを低下させます。なるべく温かい飲み物を飲むようにしましょう。



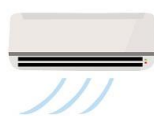
④ 水分を控えるのはNG

ただでさえ暑いから、なるべく汗をかきたくないということで、水分を控えてはいませんか？そうすると、体は脱水傾向になります。なるべく水分を多めに摂りましょう。



⑤ 冷房はほどほどに

朝晩の通勤以外に冷房の効いた社内にいる人は多いはず。できれば、冷房の温度は高めに設定しましょう。難しいければ、冷えないよう衣服で調整してください。夜はタイマーをかけて寝るようにしましょう。



⑥ 汗をかく

普段から汗をかかないと、いざ暑い場所で汗をかこうというときに、上手に汗をかけず、熱中症などを起こしてしまうこともあります。軽い運動をして汗をかきましょう。



⑦ お風呂に入る

夏は冷房で体が冷えています。シャワーだけでなく、お風呂にしっかりと入りましょう。ぬるめのお湯で、20分程度入るとよいでしょう。湯上りに水分補給を忘れずにしましょう。



7個の夏バテ防止を実践して健康な夏を過ごしましょう。

(高橋紀)

参考：武田健康サイト

編集後記

『液体ミルク』をご存知ですか？従来の粉ミルクは母乳が出にくい時、母乳の飲みが悪い時、外出などに便利です。でも、溶かすためにはお湯が必要で、溶かしたら冷やす必要があり大変です。そんな面倒を解決してくれるのが液体ミルクです。

液体ミルクは欧米では以前から普及していましたが、日本では流通していませんでした。しかし、2016年の熊本地震の時に北欧からの支援物資として液体ミルクが配布されたことで、その利便性が広く知られ2019年3月に販売が始まりました。液体ミルクのメリットはミルクを溶かすためのお湯を必要とせず、濃度の調整も不要でそのまま飲ませることができるところです。また、開封しなければ常温で保存可能。子供が産まれて20年が経過します。もっと早く販売して欲しかったです。

(橋本)

